

Applied Economics Intensive

August 4~31 2024



Index

Academic Reading Lesson	2
Academic Writing Lesson.....	3
Research Skills Lesson	4
Business Report	5
Poster Conference.....	7
Research Project Final Presentation	8
The Accommodation.....	11
Homestay Experience	13
Your Impressions of Scotland.....	15
Your Impressions of the City of Edinburgh	17
Your Impressions of University of Edinburgh	20
The Three-Day weekend trip	22
Reflections of Our Experience on This Program.....	25

[Academic Reading Lesson]

Yuta Nakamura

私は経済学部プログラムで、エディンバラに留学をした。そもそも海外に行くことが初めてだったので、楽しい気持ちもあったが不安な気持ちも大きかった。しかし、行ってみれば本当にあっという間で濃い一か月だった。エディンバラでの貴重な体験の中から、今回は **academic reading** について振り返る。

授業で学んだ中で印象に残っているのはスキミングとスキヤニングだ。スキミングは文章全体の大意をとらえるために、熟読せずにさっと文章を読むこと。スキヤニングは文章から必要な情報だけを重点的に拾うように読むこと。これは、私が大学受験をして共通テストの英語リーディングを勉強する際によく使った。共通テストの英語リーディングは膨大な量の英文を短時間で読まなければならない。もちろんネイティブや帰国子女のように公用語を読む感覚になればよいのだろうが、普通の日本人が日本で勉強してそうなるのは難しい。ここで大事なのが、緩急をつけて読むことだろう。スキミングとスキヤニングを適切に活用し、文章の流れや言いたいことをつかみ、必要な情報がある部分に重きを置いて読めば、文章を効率的に読むことができる。

このスキミングとスキヤニングを日本人が日常で使うならば、特に英語の新聞やウェブサイト、ネットショッピングをするときに役に立つ。多くの文や単語が並ぶ中から、自分が求めている情報や内容を効率よく読み取ることができるのだ。

これからもこの **academic reading** を使って私の英語力を高めていきたい。



Hayate Takebayashi



今回のエディンバラ大学留学プログラムに **academic reading lessons** というものがあった。文法を学びながら英語で書かれた文書を読む力を養うというものだ。今回のプログラムでは接続詞の使い方による論理構成の捉え方や同じこと・ものを指していながら表記が異なっている言い換えの表現を見つけたりした。このトレーニングによって文章が伝えたいことを読み取りやすくなった。また、接続詞を論理構成ごとに

分別し、羅列することで頭の中の接続詞の知識を整理させることができたと同時に語彙力を向上させることもでき、非常に重宝した。また、skimming/scanning という文章の読み方のトレーニングも行った。今、自分は何のためにこの文章を読んでいるか、どんな情報が欲しいのかなど必要に応じて注目すべき部分を変え、素早く読む力を養った。このスキルは大学入試共通テストの短い時間で必要な情報だけを読み取り、形式に非常にマッチしており、高校の授業でこのトレーニングを行っていたかったと強く感じた。エディンバラ大学の先生が作ってくださったスライドは非常に見やすく、わかりやすかった。というのも、英単語が持つ細かいニュアンスや強調具合によって単語を色分けしてくださっていたので視覚的に記憶に残るので頭に入りやすかった。ここで挙げたように、単語を種類別に分別して羅列したり、ジャンルごとに色分けしたりすることで普段文章を読んでいるときにも頭の中が整理された感覚があり、reading skill が向上した実感がある。本プログラムの academic reading lessons は私たちの英語能力を大きく向上させた。

[Academic Writing Lesson]

Tamaki Nomura

私は、このエディンバラでの一ヶ月間で、フォーマルなエッセイを書くために適切な単語、文法の使い分け方、その文章を読みやすくするために使えるリンキングワードや、単語の繰り返しを避けるために使う類義語など、ネイティブの方が考える適切な文章の要素を学びました。そしてこの授業を通して学んだことを最終的にビジネスレポートに活かそうと努力することで、より学びが強固になったと感じています。

この授業は、ただ文章を書くにあたっての注意事項を説明されるだけではなく、練習問題や課題を通した実践が含まれており、授業中に自分で考え、友人と相談する時間も用意されていたことで、とても充実したものとなっていました。この授業を受けて感じたことは、ライティングの授業を通して語彙力が高まり、それによってスピーキング力も鍛えられているということです。特にリンキングワードという物を学んだあと、ホストファミリーに学校であった出来事などを、順序を追って説明することがとても楽になりました。リンキングワードとは、前の話題と次の話題の関係性を示す言葉で、それによって因果関係などが明らかになるものです。授業中に習ったものの中にはフォーマルなものがあり、全てが会話に応用されるわけではないですが、それでもリンキングワードを使って説明しようとすることで、頭の中の整理が簡単になり、より流暢に話せるようになったのではないかと感じました。また、リンキングワードは英語の文章を読む際の頭の整理にもとても役立つと感じました。

英語力とは、書く・読む・聞く・話すの全てを指し、どれか一つに限定されるものではありません。しかし、ライティングスキルについて学ぶことで、英語に触れる際の脳内の整

理がより早くなったと感じています。そういった意味でこの授業は、わたしにとってとても印象に残ったものです。

エディンバラサマースクールでは、授業が週 10 コマあり、うち 2 コマは Academic Writing でした。Academic Writing では、最終アウトプットとなる Business Report に向けて、フォーマルな英作文を行うためのノウハウを学びます。具体的には、ペアの子の他己紹介を作成したり、日本やスコットランドの経済について説明したり、要旨・要約を作成したりして、英語ライティングの練習問題に取り組みました。接続語（リンキングワード）や品詞・コロケーションの使い分けについて学び、文法のフィードバックを受けながら、文章をブラッシュアップしました。

当初、英語だけの授業でついていけるか不安もありましたが、現地の先生は生徒に寄り添って下さり、さまざまな表現で伝え方を工夫していただいたおかげで、楽しんで取り組むことができました。やさしい英語で英文法を説明してもらったため、常に英英辞書を引いているような感覚で、次第に英語を英語で考えるクセが身につきました。中でも、英語の教科書では同じ「未来」を表す助動詞である will と be going to の違いを英語で説明を受け、自然に理解できたことが嬉しく、印象に残っています。

普段、日本語と英語を行き来しながら学んでいる私のような日本人学生にとって、英語だけで学ぶことは貴重な経験となりました。英語は英語で考えながら学ぶという今後の指針を得ることができました。

Mayu Shiraishi

[Research Skills Lesson]

Atsushi Miho



エディンバラ大学のカリキュラムの中に英語でプレゼンテーションするという授業がいくつかあった。そのプレゼンを通して英語のスピーキング能力やリスニング能力が鍛えられたのはもちろんのことだが、それ以外にリサーチスキルも向上した。その例を以下でいくつか紹介する。

一つ目はポスターを作りそれを他の国から来ている留学生にプレゼンするというものだ。そこでは自分は、イギリスと日本のエネルギー環境を調べまとめた。そこではインターネットを使い日本の環境省のサイトを調べた

り、イギリスの発電状況の内訳のデータを調べたりした。さらに、日本とイギリスの差について背景やエネルギー源に関する論文を読み考察した。

二つ目はベトナムやガーナなどのマイナーな国の経済について調べ発表するというものだ。そこでは主にインターネットを使い調べるのだが、発展途上国なため情報が錯綜しておりサイトによってデータが違うということがしばしばあった。なので、信頼できる情報を集めるためにいくつかのサイトを他の人と協力し調べ比較することでできるだけ正確な情報を集めるよう努めた。

三つ目は最終課題としてパワーポイントを作りそれをプレゼンするというものだ。ここでは自分は、日本とイギリスのワークライフバランスについて調べプレゼンした。まず、ワークライフバランスを調べるにあたり、労働時間と仕事に対する満足度を調べる必要があった。そこでエディンバラの街にいる人に直接インタビューし、情報を集めた。日本人のデータに関しては、インターネット上で情報収集した。インタビューをする上で相手に時間を取らせないように簡潔にかつ、失礼のないように丁寧な英語を使うことに苦労した。

以上のように、今回のサマープログラムでは英語力の向上以外にも日本でも通用する情報収集能力も向上させることができた。

Miho Hirai

今回のサマースクールの講義の中には、ライティングレッスンやスピーキングレッスン、リサーチレッスンがありました。その中で、私はリサーチレッスンに関して紹介しようと思います。リサーチレッスンでは、プレゼンテーションを行うときの流暢さや自信、明快さを向上させること、経済学のトピックに関係する質問内容や回答方法、短い要約の書き方を学びました。私の体験を三つ紹介します。

一つ目は、様々なお題に関してのポスターを作り、一緒にエディンバラに来た人だけでなくほかの国から来た留学生にもプレゼンを行いました。私は、再生可能エネルギーに関して調査を行いプレゼンテーションを行いました。そこで私は、インターネットでスコットランド政府の取り組みに関して調べポスターにまとめました。

二つ目は、ベトナムやガーナ、メキシコの中からどの国に投資すべきかというテーマで論文を作成しました。私は、メキシコに関して調査を行いました。発展途上国ということもあり、データを得ることが難しく苦戦したことを今でも覚えています。

三つ目は、最終プレゼンテーションとして自由なテーマで10分間のスピーチを行いました。調査の一環として、自らエディンバラの住民に英語でアンケートを行いそれを集計しました。エディンバラの方はみんな優しくて、私が伝えようとしていることを親身に聞いてくれて嬉しかったです。

これらの三つの経験を経て、英語力の向上はもちろんこれらの学生、社会人生活でも役立つことを学ぶことができました。



[Business Report]

Ryunosuke Fuji



エディンバラでの生活や、大学での授業に慣れてきたころ、**Business Report** を書いてみようと言われました。**Business Report** を書いたことがある人はいるかと聞かれ、自分が知らないだけで一般的な用語なのかと思い、おそるおそる周りを見渡すと、だれも手を挙げていませんでした。

ほっとしたのも束の間、概要を聞いてみると、ガーナ・メキシコ・ベトナムの3つの国から1国を選び、その国が投資先として十分魅力的であるかを、情報をもとに検討・比較し結論を出す。大体800字で。というものでした。これを聞いたとき、自分は「投資のことなんて全然わからないし、大丈夫かな」と感じていました。しかし、蓋を開けてみると、それぞれの国の主要な産業などが書いてあるサイトや、投資に関連したニュースがまとめられているリソースなどを先生方が提示してくださり、ひとまず何も書けずに全く手が動かないことはなさそうだと分かり、とにかくたくさん調べて情報を集めました。ありがたいことに、先生方は自分たちの質問にも丁寧に答えてくださり、どのような構成で書けばいいかわからなかった自分にも、具体的にこのパートにはこのくらいの分量を書けばいいなどアドバイスをいただきました。

自分はメキシコについてレポートを書くことと決め、情報を集めていましたが、授業の中で、同じ国について書く人同士で情報を持ち寄って共有する時間があったり、他の国を担当している人から解説してもらう時間があったりしたため、どういうトピックを中心に書けば良いかや、他国とどういう比較をすればいいのかななどを、意見を出し合いながら考えることができ、英語を書く能力だけでなく、英語で情報を収集する力や、英語で意見を伝える力なども副産物的についていったように感じました。

最終課題のプレゼンテーションの準備や、エディンバラ市街観光にも追われ、800字のレポートを書き上げるのは大変でしたが、自分で情報を調べ上げ、本当のビジネスマンになったつもりで考えながら書いたレポートは、個人的には納得のいくものができました。

最終課題の1つにビジネスレポートというものがあった。ガーナ、メキシコ、ベトナムの中で投資をするならどの国にするか、というテーマのもと、自分で投資する国を決めてエッセイを書いた。この課題は最終プレゼンテーションと並ぶとても重要で大変な課題であった。

自分は上記の3つの国の中でガーナを選んだ。その理由は3つの国の中で1番馴染みのないガーナについて詳しく知ることのできる良い機会だと思ったのと、天然資源が豊富であるガーナは大きな発達の可能性を秘めていると考えたからである。このビジネスレポートに取り組む時間は授業内で10時間以上与えられたが、自分はそれのほとんどをガーナについて調べることに費やし、文章自体は放課後や朝の時間を使って1週間ほどで書き上げた。単語数は800字程度であったが、使用する単語は難しく、また、自由な作文とは違ったフォーマルな単語や言い回しが必要とされているのでとても書きごたえがあるものとなった。

内容の構成としては、最初にガーナの基本的な情報や現在の経済状況を説明した。そしてその後、ガーナに投資を進めるべき部門とその理由を詳しく書き、最後に全体のまとめと参考文献を書いた。



プレゼンテーションなどを含めた他の課題はペアワークが多く、友達と協力するものが多かったが、このビジネスレポートは1人でやる課題であったので不安に感じることも多く大変であったが、その分書き上げた時は達成感を得ることができた。最後に、このビジネスレポートを通して、ガーナという国のことを深く知ることができ、基本的な英語力と単語力はもちろん、英語を使って人に説明、説得をする能力を大いに伸ばすことができたので、とても良い経験であったと振り返る。

[Poster Conference]

Ruriko Tanaka

私がこのプログラムに参加して、最も印象深かったのは2週目に行われたポスターカンファレンスです。これは、二人組でスコットランドの興味深い事柄について調べて、自分たちの発表を聴きに来た人に英語でその内容を伝えるものでした。私たちのグループは「スコットランドの宗教事情」について発表しました。そもそも私自身がスコットランドがどのような宗教事情であるのか知らなかったもので、新鮮で興味深い内容でした。現在、スコットランドではほとんどの国民が無宗教で、その割合はどんどんと増加し続けている

一方、スコットランド内で最大規模の宗教一派であるスコットランド国教会やカトリックを信じている人口は減少し続けています。その結果、スコットランド国教会を信じているスコットランド国民の割合は、現在の人口の全体の半分にも満たなくなっています。加えて、スコットランド内だと無宗教の人の割合が変動することは話題となり得ますが、日本ではほとんどの人が無宗教であるためそのようなことは起こりません。発表後の質疑応答の時間では、私に信じている宗教はあるのか、日本人の宗教事情はどうなのかほとんどの人に尋ねられたのが二か国のギャップを物語っていると感じ、興味深かったです。また、なぜスコットランドで無宗教の人の割合が高まったと考えられるか、という問いでエディンバラ大学の先生と議論したことが一番印象に残っています。私は SNS の普及により、「個」が尊重される世の中になり、今まで受け継いできた伝統などに捕らわれず自由に生きることが可能になったからだ、と考えました。一方、先生は私の意見に加えてグローバル化も関係あるはずだとおっしゃっていて、グローバル化がそのような影響を持ちうることも興味深かったです。このプログラムを通して文化の垣根を越えた考え方に多く触れることができたので、自らの知見を深める実りあるものとなったと思います。

Mizuki Okamoto

研修 2 週目の最後に 2 人でペアを組み、ポスターセッションを行った。クラスメイトだけでなく、現地の教員や同時期に留学に来ていた中国の学生を前に作成したポスターを掲示しプレゼンを行った。これまでも講義などでプレゼンテーションを行う機会は何度もあった。しかし授業でプレゼンを行う際のコツを学ぶ機会は少なく、非常に良い経験となった。またプレゼンで取り扱ったトピックは全てスコットランドの経済や産業に関連するものであり、訪れるだけでは分からないスコットランドの歴史や現状について深く知る機会となった。ポスターセッション当日、発表を見に来た中国の学生との交流が特に記憶に印象的であった。彼らは流暢に英語を話し、積極的に質問をし、そこから趣味の話に繋がることもあった。自分と同じようにアジアから来た人ながら話す言語が異なる彼らと、英語を通じて交流し、互いを理解し合い、リスpekトし合うことが可能であると強く認識することができた。また自分の英語スキルに一定の自信はあったものの、エディンバラ大学の教員を前にプレゼンを行い、ポジティブなフィードバックを頂くことができ、更にその自信が確固たるものになった。しかし自分自身で振り返ると改善点も多くあると感じたため、自分の成長にも寄与した良い機会を得ることができた。また、研修の最後に行った最終プレゼンテーションも同様に 2 人ペアで発表を行った。この二つの機会を通してプレゼンテーションを視覚的にも、言葉でもより伝わりやすく組み立てることを考え、パートナーと協力し良い

ものを作り上げることを意識した。この経験は大いに今後の自分の成長の糧になるだろうと感じており、誰にとってもそのような価値があると考えている。

[Research Project Final Presentation]

Kenshin Uchiyama



エディンバラ大学での留学プログラムの集大成として、最終プレゼンテーションがありました。プレゼンテーションに至るまでに、テーマ選択や調査、スライド作成など今まで学んできた全ての技能を活かすことが求められました。プロジェクトは二人一組で行い、自分たちの関心のあるテーマを自由に選ぶことができました。私たちはエディンバラでの生活の中で食費が高いことを感じていた

ため、食費に関する日本とスコットランドの違いについての研究を行いました。この最終プロジェクトは基本的にインターネットが情報収集の基本的な手段でしたが、エディンバラに在住する人への調査を行い、データを作成することが必須とされていました。私たちはホストファミリーやその友人などにアンケートを実施しました。他のペアは大学の関係者や街頭で調査をすることもあり、英語をより実践的に活用する機会となりました。また調査結果が自分たちの求めている結果になるとは限らないため、当初予想していた研究の方針を柔軟に変化させることも求められていたように感じます。私が一番苦労したことは英語でのプレゼンテーションでした。1人当たり約10分間英語を話続ける必要があったためです。台本を暗記するのは禁止で、軽いメモ書き程度なら見てもよいという指示でした。私自身の英語力は高くなく特にスピーキングは苦手でした。そのため、その場で話したいことを話す練習を重ねることで本番に臨みました。翌日にはプレゼンテーションへの非常に細かいフィードバックがありました。発表中に間違えた発音などの英語に関するものから、プレゼンテーションにおける振る舞いのなどの多岐にわたる細かい部分に対してコメントをいただきました。先生が一人一人真摯に向き合ってくくださったことに強く感謝を感じるとともに、これ



からの日本での生活の中でも日々英語能力を高めていく必要があると思える経験になりました。

Yuka Ozawa



私たちは期末課題として、最終日の授業でプレゼンテーションを行いました。プレゼンテーションの内容は、経済に関するものの中でテーマを決めて日本とスコットランドを比較するというものでした。

2人1組で、15分程度のプレゼンテーションを作り、スライドを使ってクラスメイトの前で発表しました。4週間の授業では主に英語のライティングやスピーキングのポイントを学習していたので、それを活用してプレゼンテーションを作りました。プレゼンテーションを準備する期間は2週間ほど用意されており、授業中に8コマ分程度の作業時間がありました。インタビューは授業時間外に行いました。授業時間内に終わらない部分はパートナーと学校に残って作業をしました。

私は日本とスコットランドの生活費の違いについて調べました。最初はプレゼンを作るためだけに調べていましたが、調べていくうちにスコットランドについての理解が深まり面白かったです。また、調べる中で10人程度にインタビューも行ったので、スコットランドの方々の生の声を聞き、リアルな話を知ることができました。具体的には人々がどこにお金をかけるのか、いくらかけるのか、などを聞き取りプレゼンで資料として使いました。

私たちがこのテーマを選んだ理由はスコットランドの物価の高さに驚いたからです。それに加えて円安でもあったので生活する上で日本の2倍ほどの生活費がかかると感じました。

期末プロジェクトを通して、英語が上達するだけでなくスコットランドについての理解がとても深まりました。このプロジェクトがなかったらスコットランドの経済や生活について知り得なかったと思うので、学校のプログラムとして組み込まれているのはその国について知るととてもいい機会になると思います。

Riki Imanaka

エディンバラ大学で最後の課題であるリサーチプロジェクトに取り組んだことについての感想を一言でいうと、とても楽しかったです。リサーチプロジェクトの存在についてはプログラムの当初から言われていました。経済学部なので経済に関するリサ

ーチを行いデータを集めて考察を行い、資料を作成して発表するという、自分が今まで経験してきたどの課題よりもゼロから作り上げるような課題でした。本当に何も無いところから自分たちで議題を設定し、インターネットを使って情報を集め、現地の人々に行うインタビューの内容を作る。あらかじめ自分たちで結果を予想し、実際にインタビューを行って現地の生の声を集めそれを基に結論を導く。これらの過程で、経済に関することという指定以外は何もなくほぼゼロからのスタートでした。この課題はペアで進めていくものだったので、パートナーとは常に連携を取りながら課題をこなしていきました。エディンバラ大学の教室や、ときに図書館を使いながら楽しく真剣に取り組んでいました。インターネットでデータを集めインタビューの内容とそれに伴う結果の予測を立て、二人で協力して現地の人の声を集めました。エディンバラ大学の先生やホストファミリーにもインタビューしましたが、この作業はなかなか大変でした。なぜなら、自分の質問に対してのアンサーを聞き取りながらそれをメモし、同時にそれに対する返答と次の質問の準備をしなくてはならないからです。もちろんすべて英語で行います。インタビューした人たちは皆親切だったので多くの情報や考えを共有してくれますが、その分聞く側としても大変でした。本番のプレゼンテーションは緊張から体の向きが前ではなくスライドの方を向いてしまい声が通りにくく、動きの少ないものになってしまいました。良い経験になりました。様々な英語の能力が問われる課題でしたが、何とか最後までやりきることができました。この課題をこなすのは大変だったけどとても楽しい思い出です。



[The Accommodation]

Masahiro Kanazawa

僕たちの宿泊した寮はエディンバラの中心地から少し南の South Clerk Street に位置する、五階建ての建物であった。エディンバラの中心街、エディンバラ大学へはどちらもおよそ 15 分程度で、エディンバラ市内であれば、バスを使えば数十分程度でどこでも行けるという非常に便利な場所であった。寮の中はというと、たくさんの部屋に、テレビ、ビリヤード、数々のボードゲームなどが並んでいる、共有スペースであるコモンルーム、そしてコインランドリーがあった。部屋は一人一部屋与えられ、四

人でリビング、キッチン、バス、トイレを共有するという、いわゆるフラット形式であった。そんな充実した設備と満足な立地に恵まれた寮について、僕が特に気に入ったところをいくつか紹介しようと思う。まずは、寮のすぐ隣に、とても広大できれいな公園が広がっているということだ。The Meadows というこの公園は、日本ではまれにみるほどの広大な芝生の公園で、僕もよく、友人と、あるいは一人であっても散歩をしに行っていた。次に気に入ったところは、なんととっても立地だろう。Fringe という



一か月にわたるお祭りが開催されている 8 月は、エディンバラの町中が活気にあふれていて、町のいたるところで音楽、大道芸などを実演している。そんな Fringe のほぼ真ん中ともいえるような場所に寮があり、お祭りを毎日、朝から晩まで存分に楽しむのである。そして最後に気に入ったことは、同じ寮に宿泊する別の大学の学生と交流ができるということである。今回は中国から来た留学生が数十名おり、コモンルームなどでたくさん交流し、お互いの食事や遊びなど様々な文化を紹介しあった。以上のように、エディンバラという街を存分に味わうことができ、また異文化との交流も体験させてくれた寮には非常に感謝しており、またいつか戻りたいとも思うほどに、僕はあの寮と、そしてエディンバラという街が大好きである。

Soma Isobe

私はホームステイを希望していたので若干不本意ながらもエディンバラ大学の寮に向かいました。直前まで調理器具や毛布があるかどうかわからず不安でしたが、なくて困ったのはドライヤーとハンガーくらいであとは一通り揃っていました。シャンプーや食器用洗剤などは現地調達で十分です。また 4 人部屋ということでしたが共用スペースは廊下とキッチン・ダイニング、風呂トイレで、各自鍵付きの自室がありプライバシーが確保されていました。食事についてですが、夜ご飯は 4 人で打ち合わせをして何を食べるか決めて学校帰りにでも買うという形です。主食にコメがないので、



だいたいパスタを作っていました。日本からサバ缶とレトルトカレーを持ってきましたが正直パスタは飽きていたしもっと持ってくれば良かったかなと思います。朝ご飯は各自で食パンやサラダ、ベーコンやコーンフレークを買って食べていました。ただ、スコットランドの牛乳が美味しくてみんな飲むので、2日に1回は2リットルボトルを買い足していました。昼ご飯は午後まで大学がある時は校内で食べていましたが、午前終わりの時はホームステイの人も寮に呼んで途中にあるTescoで冷凍ピザやインスタントラーメンを買ってみんなで食べました。料理で1番大変だったのは醤油やみりん、焼肉のタレといった調味料がなく選択肢が狭まったことなので、何かしら日本から持って行った方がよりバラエティに富んだ料理ができたと思います。そして基本的にイギリスの物価は高い方でこの時円安でもあって一回の外食で4000円ほどとられる状態だったので、ほとんど外食はせず自炊をしていました。寮の1階にはコモンルームがあってそこにはいくつかのボードゲームとビリヤード台があって、数回集まってパーティーをしました。そして寮で1番良かったと思ったのは、私たちよこはまこく横浜国立大学の他に名古屋大学の生徒がいて、さらには中国人留学生がたくさんいたので交流を持てたということです。拙い英語ですがお互いを感じていることを本音で話せてとても良い機会になりました。寮生活の懸念点としては、まわりに日本人が多くて英語を話す機会がホームステイと比べてかなり少ないということです。ホームステイの様子を聞くとホストファミリーとの食事時などに話す機会がありますが、寮だと普段の日本の生活と変わらず少し残念に思いました。

[Homestay Experience]

Go Miyoshi



る不安もありました。学生寮とは異なり、ホームステイでは周りに日本人がおらず、すべてを自分でこなさなければならないと思っていたからです。しかし、プログラムを終えた今、その不安は杞憂だったと感じています。エディンバラ空

今回のプログラムでは、宿泊先としてエディンバラ大学の学生寮とホームステイの二つから事前に選択することができました。私は現地の人々の暮らしを体験し、英語を使う機会を増やしたいと考え、ホームステイを選びました。プログラムが始まる前は、ホームステイに対す



港に到着して初めてホストファミリーと対面しました。私は拙い英語で自己紹介をし、正直に緊張していることを伝えました。すると、彼らはとてもフレンドリーに対応してくれ、長旅で疲れている私を気遣って、家に到着してすぐに軽食をふるまってくれました。ホストファミリーは、私の気持ちをできる限り理解しようとしてくれました。その後、初日にもかかわらず、ファミリーは親戚のパーティーに私を招待してくれ、家族全員が私に話を振ってくれたおかげで、私も会話に参加することができました。学校が始まると、私はその日の出来事をファミリーに話し、その受け答えを通じて英語力が向上していることを実感しました。毎日の夕食時には、日に日に自分から英語が自然と出てくるようになり、会話がますます楽しくなっていました。さらに、ファミリーには私と同年の息子がいて、共通の趣味が多かったため、彼との会話も楽しく、英語を話すことに対する自信がついていきました。休日には、私が夕食のときに「スコットランド鉄道博物館に行きたい」と話したことをきっかけに、ファミリーが私を鉄道博物館に連れて行ってくれました。出発前の不安は、この頃には完全に消えていました。このように、ホームステイでの生活は非常に快適で、勇気を出してホームステイを選んで本当に良かったと感じています。

Saki Ynagita



私は母と娘2人の三人家族の家に滞在しました。最初は英語でうまく話せるか不安でしたが着くと、とても暖かく迎えてくださり、私が英語で詰まったり、うまく聞き取れなかったりしても丁寧に受け答えしてくれたので安心してホストファミリーと会話を楽しむことができました。初日にはハウスツアーと近所のスーパーまでの案内をしてくれました。また、家の近くをトレーニングで走りたいと言ったところ、ランニングコースも教えてくれました。ホストマザーはエ

ディンバラのガイドの経験があったため、エディンバラ中心部の観光スポットや歴史に詳しく、エディンバラ観光の際には様々なアドバイスや名所を教えてくれて助かりました。ホストマザーはベジタリアン、ヴィーガンでしたがスコットランド料理からホストマザー考案料理まで幅広く



いものを作ってくださってとてもおいしく、食材は自分が初めて食べるものが多く、新鮮な経験でした。また、定期的にシーツを変えてくれたり掃除をしてくれたりしたので快適に生活を送ることができました。休日にはホストマザーと中心部に住んでいる娘さんとともにアーサーズシートに上りました。娘さんの案内の元、アーサーズシートの上からの眺めだけでなく、頂上に行くまでの景色も楽しむことができました。ホストマザーがチーズパーティーを開いてくれて最終プレゼンのアンケートをする場を設けてくれました。私は家でパーティーをするような経験があまりなかったのでとても新鮮で楽しかったです。また、その後もホストマザーは最終プレゼンの相談に乗ってくれたりアドバイスをしてくれたりして大学での学びをサポートしてくれました。私が英語での会話が1か月の間でより上達したのはホストファミリーとの日々の会話があったからだと思います。この滞在によってより充実したプログラムになりました。

[Your Impressions of Scotland]

Chie Ubukata



留学前に私がスコットランドについてもっていた印象は、タータンチェックやウィスキー、自然豊かな風景が魅力的な国、などだった。実際行ってみると、印象通り空気がおいしく自然豊かな国だったが、スコットランドで生活することで、街の雰囲気やそこに住む人々の温かさなど、より魅力的な面を知ることができた。ホストファミリーと一緒にアーサーズ・シートという小高い丘に登った際には、スコットランドの大自然を実際に体感することができた。頂上からは都市エディンバラ一帯から周辺の大草原までを眺望することができ、写真で見た以上の絶景で貴重な経験となった。また、都市エディンバラ

では留学期間中にスコットランド最大の芸術祭であるフリンジが開催されていたため、より活発なスコットランドの雰囲気を感じることができた。特に印象に残っているのは、路上で行っていたコメディショーで、街の人々や通行中の車に無茶振りをするというものだ。ほとんどの人がその無茶振りに素通りせず、リアクションして日本では見られない光景だったので新鮮だった。バス停でも気軽に話しかけてくれる人や目が合うと笑顔で挨拶してくれる人がいて、スコットランドの人々のフレンドリーな面や親切さに感動した。スコットランドで一番驚いたのは日が昇っている時間

の長さだ。季節の関係で、夜9時くらいまで明るかったので、ホストファミリーの勧めで夕飯後に夕日を見ながら散歩でき不思議な経験だった。また、美術館や素敵な建物が至る所にあつたので、リフレッシュや学びの機会を生活の中で多く得られたのが印象深かった。また機会があれば、違う季節にも訪れてみたいと思った。

Hinano Yagi

スコットランドでの一か月の滞在は、文化や生活習慣、気候の違いを肌で感じる体験だった。最初の授業では、スコットランドの歴史や地理について学び、UKとグレートブリテンの違いやスコットランド独自の文化、言語に触れることができた。スコットランドでは「スコティッシュ」と呼ばれる英語の一種が使われていて、イギリス内でも地方によって言葉が違うことを改めて感じた。

滞在中で特に印象に残ったのが気候だった。八月でも涼しく、最高気温が14度の日もあって肌寒い日が続いた。雨も多く、傘をさすこともあったが、風が強くて傘がほとんど役に立たないと実感した。多くの人が防水で厚手の上着を着て、フードをかぶって歩いており、現地の生活スタイルがうかがえた。

食文化も独特で、スコットランドの伝統料理ハギスを観光地で試した。観光地向けにアレンジされていたのか意外と食べやすく、癖はあまり感じられなかった。また、気候の違いからか、スーパーで見かける食材や調味料も日本とは違っており、新しい味に触れる機会が多かった。

スコットランドの生活で意外だったのは、公共の場で酔っ払っている人をほとんど見なかったことだ。夜10時以降はスーパーで酒類が販売されないためか、秩序が保たれているように感じた。

水道水は日本と同じくらいの硬度で清潔だったので、そのまま飲むことができたのは便利だった。移動手段についてはバス路線が発達していて、ほとんど時刻通りに運行されている。バスが生活に根付いていて、移動のメインはバスか車だという印象を受けた。

また、poster conference という授業ではエアロスペースや宇宙産業について調べる機会があった。スコットランドは宇宙関連のスタートアップ企業が多く、人工衛星の開発も盛んで、宇宙産業が成長していることを知って驚いた。スコットランドでの生活は、文化や暮らしの違いを肌で感じるができる充実した経験になった。

Maiko Hirota



自分がこのプログラムを通してのスコットランドの印象は、雄大な自然、豊かな文化、そして古くから存在する歴史ある街並みが魅力的な地域だと感じた。今回このプログラムに参加する前に自分はスコットランドとイギリスの違いが分からず、知識のない状態での参加となったが、それぞれに沢山の歴史と美しい自然があることを知った。

た。

まず、自然の壮大さが印象的で、ハイランド地方では緑豊かな丘や霧が立ち込める険しい山々が広がっている。そして有名な「ネス湖」はその神秘的な雰囲気や「ネッシー伝説」により観光客が多いと感じた。自然愛好家や登山経験者などのアクティブな観光客が多い印象を受けた。

続いては歴史的印象である。私が実際に訪れたエディンバラ城を始め、スターリング城などの様々な歴史的建造物がある。特にエディンバラはユネスコの世界遺産に登録されており、旧市街と新市街の美しい街並みがみどころである。また、ハリーポッターの作者である **J.K. Rowling** が参考にした街並みとしても有名である。このように何世代を超えて今にも伝わる歴史が肌で感じることができる場所である。

最後はスコットランドの文化である。ケルトやゲールの伝統が息づいており、バクパイプやチェック柄で有名なタータン柄、キルトなどが象徴的である。また、スコッチウイスキーはスコットランド最大の名産品であり、作られた場所や気候によって味が全然違うのも印象的だ。

以上のことを踏まえ、スコットランドは自然、歴史、文化のすべてが融合し、他の国では味わえない独自の魅力をもたらしているという印象を受けた。



[Your Impressions of the City of Edinburgh]

Shunsuke Akagi



1ヶ月間エディンバラに滞在し、エディンバラは現代的というよりも古い街並みが残されており、さらには広大な自然



もあり、平和で美しい街だと感じました。広い公園では、座って談笑したり寝転

んで本を読んだりする人々の平和な光景が印象的でした。エディンバラはスコットランドの首都ですが、東京やロンドンほどの発達した都市ではありません。しかし8月に行われるお祭りであるミリタリータトゥー、フリンジによる影響もあり観光客数はとても多く、街もかなり賑やかでした。旧市街地の街並みは特にレンガで作られたような外観の建物と石畳が中世のような雰囲気を持っていました。エディンバラ大学のジムに1ヶ月通ったのですが、外観はレンガで作られたような見ただけなのですが、中はかなり新しくきれいだったので、地域として景観の維持に努めていることが伺えました。またエディンバラは自然が豊かな場所でもあり、アーサーズ・シートやペントランドヒルズ、カールトン・ヒルなど気軽に登れ、景色が良い山や丘などが多いのも個人的にエディンバラの好きな部分でした。そして自分にとって最もイギリスにいることを感じさせたのはバス、アパート、駅などでした。バスは基本的に2階建てであり、横に長い建物に規則正しく多くの玄関が設置されているアパートは自分のイメージしていたイギリスそのものでした。また駅も天井が高く自然光で昼間は明るく、映画で見るような光景でした。街の中心にはエディンバラ城があり、崖の下から見る崖の上のエディンバラ城も壮観でした。エディンバラはどこに行っても美しく、落ち着き、平和な街でした。

Towa Ashidate

8月中、約1か月間を通して感じたエディンバラという街の印象について語ってみたいと思います。

エディンバラには多くの観光スポットや歴史的建造物が存在しています。実際に訪れてみるとまさに、私が思い浮かべるヨーロッパの街並みを体現したようなとても綺麗な街でした。私が訪れた場所で特に印象に残っている場所はエディンバラ城です。エディンバラ城は街のかなり高いところにそびえたっている歴史的建造物です。エディンバラ城からはエディンバラの街並みを一望することができました。私はプログラムの最終日にエディンバラ城に行ったのでそれまでに訪れた様々な場所を振り返りながら街の景色を一望できてとても良かったです。エディンバラ城の中では城に関しての歴史を知ることができ、さらに王冠や剣などの歴史的遺物を多く見ることができました。多すぎて今回1つしか語れませんがエディンバラ城以外にも素晴らしい場所がたくさんありました。

次に私がエディンバラに訪れていた1か月間行われていた **Fringe** という祭りについて語ろうと思います。この祭りは音楽の祭典なのですがなんと驚くべきことに1か月間も行われていました。ちょうど私たちがエディンバラを訪れた8月中が開催期間だったためとても運が良かったです。私たちの留学はこの祭りと共にあったといっても過言ではありません。この祭りは俗にいう日本の屋台を出すような祭りではなく道端で様々なものを披露するという感じでした。楽器を演奏している人や歌を歌っている人、ビートボックスをしている人など多くの人がありました。中には大道芸をやっている日本人もいました。大通りはこの祭りの影響かとても多くの人でにぎわっていました。



今回このプログラムに参加して、エディンバラという街を訪れることができてとても良かったです。

Daisuke Yamachika



エディンバラの街はまずとても綺麗だった。それは歴史的な街並みという意味もちろんあるけれど道にゴミが落ちていることも少なく、治安という意味ではそこまで日本と変わらないなという印象だった。エディンバラの人達はとてもフレンドリーな方が多かった。自分のホストファミリーがエディンバラの人々は自分たちが外から来た人たちに対して、とても優しく親切であるという誇りを持っていると言っていたが、本当にその通りであると思った。バス

乗り場でどれ乗ればいいのか分からずたむろっていたら「大丈夫？」と話しかけてきてくれたり、パブで隣の席になった人が笑顔で会話してくれたりといい思い出がとても多い。8月はエディンバラでFRINGEという大規模なお祭りが開催されている。バグパイプという伝統的な音楽やダンス、マジックなど様々なパフォーマンスがあちらこちらで行われている。いろいろな国の人がパフォーマンスしており、日本人もいた。ブラジル人のパフォーマーがサーカスのように、人を飛び越えたり、バク転をしたり派手なことをしていたのが一番印象に残っている。エディンバラという街はハリーポッターが生まれた都市であり街並みは本当に映画の世界の中のようなようであった。エディンバラ城といった歴史ある建物とアーサーズ・シートのような自然に作られたものがうまく調和しており高いところからの眺めは素晴らしいものだった。スコットランドの都市として街に一体感があり、日本のどこでも体験でき content な場所であったと感じた。

[Your Impressions of University of Edinburgh]

Yui Natsume



私が感じたエディンバラ大学の印象について記述します。

街中にキャンパスがあり、街並みと同じように伝統的な造りになっているキャンパスは毎日通い見ているだけでもエディンバラの文化を感じることが出来て良かったです。校内にテラスがありベンチもあって、お昼などはそこに座りご飯を食べてる人が多いのも印象的でした。エディンバラの夏は涼しく気候がいいのも相まって外で過ごしている人が多いと感じました。また、他の授業はわかりませんが、アクティブで一人一人の発言量やディスカッションが多く楽しい授業だと感じました。

また、ジムや図書館などの設備が充実していると感じました。図書館が24時間開いているのは魅力的でテスト前などに長い時間利用することが出来るのはとても良いと感じました。また、グループ用の学習スペースも充実していて、壁で丸く区切られ一つのテーブルに一台モニターもあり良いと感じました。私も、最終プレゼンテーションの資料の作成や構成の話し合いの際に利用しましたが、集中することが出来良かったです。図書館には膨大な量の本があり、エントランスでは、著者やタイトル、出版年を打ち込めば本を探すことが出来る機会もあり便利だと感じました。ジムは、日本

円で1か月およそ5000円程度払えば利用することができ、4階にもわたる充実した設備があり魅力的でした。私たちが授業をしている棟の近くにジムがあり、授業前にジムを利用している生徒もいてよい時間の使い方だと感じました。

楽しく貴重な体験ができ、ぜひまた訪れたいと感じました。

Shouta Takebe



経済学部1年の竹邊彰泰です。私が最も驚いたことは多くの日本の大学と異なり、大学の敷地がとても広く、素晴らしい設備が整っていることだ。日本の大学と異なり、キャンパスなどの大学施設とその他の建物の間の境界線があいまいで、講義を受けた施設や寮の周囲にある一般の店舗ではない大きな建物はそのほとんどが大学の所

有している建造物であった。中世ヨーロッパと言われて想像するような歴史の感じられる建造物が多く、町中が一個の大学のような様相であった。その上、ヨーロッパ系の人だけでなく、アジア系、中東系、アフリカ系などの多種多様な人種の人々を大学構内や町中で頻繁に見かけた点も日本の大学や町との差異を感じた。また、毎年夏に行われている地域の祭りであるフリンジで催されるコメディショーなど、大学と直接の関係がないように思われる出し物が、大学の施設や広場を利用して行われていたことにも衝撃を受けた。たしかに、ヨーロッパなどの国々では、夏休みの期間が長く、そのあいだに、利用される予定のない施設を貸し出しているのであろうし、有効活用していることは優れたことだと思うが、火災などのトラブルが起きた際の責任の所在がどうなるかなど疑問に思った点も多い。さらに施設の面で、特に素晴らしいと思ったのは、図書館とトレーニング施設だ。

まず、エディンバラ大学の図書館は24時間365日開いているため、学生ならいつでも利用できることに加え、多種多様な用途別に区分された、ワークスペースだけでなく、資料室、カフェ、図書館に設置されたパソコンを操作できるスペースなどがある。地上七階、地下一階建ての巨大な施設だった。次に、トレーニング施設は利用するのに月22ポンドを払う必要があったため、利用することはなかったが、オリエンテーションで見学した際、とても清潔で、



プロのスポーツチームが使うような機材が数多くそろっていたことが印象的だ。

Hina Goto



私が実際にエディンバラ大学に通う前から、エディンバラ大学は世界的にも大学ランキングがとて高く、スコットランドの中心적인役割を果たしていて、イギリスの歴史ある大学の一つだということは知っていたため、実際に通うことができると決まったときはワクワクした。エディンバラ大

学は、街の中に校舎が点在しているのが特徴である。私たちが授業を受けていた大学の建物は、本校舎ではなかったものの、建物の中もとても歴史を感じつつ、きれいに保存されている印象を感じた。

実際に学校の授業の一環でエディンバラバスツアーを行った際に初めて目にしたエディンバラ大学の本校舎は圧倒的なたたずまいで、本当にハリーポッターの世界にきたかのような風貌で今でも脳裏の深く焼き付いている。他の校舎も同様に、さすが世界遺産になっているエディンバラの街の中にある大学だなと感動するくらい、それぞれの校舎で、歴史的な建造物の中で授業を受けることができるところは非常にうれしかった。エディンバラ大学は、2025年QS世界大学ランキングで27位、世界大学ランキングで30位という非常にレベルの高い大学であり、自然科学者のダーヴィンが通っていることでも有名である。実際に授業を受けてみてわかったことは、生徒と学生が対になって向き合って授業をしているというよりは、先生と生徒がチームとなって一つの話題に対して、意見や考えを深めているという印象だった。話す側と聞く側で分かれているイメージがあった中で、ディスカッションやグループワークを重視して、授業の中での真の課題に向き合っていく授業スタイルがメインだった。そのような環境下では、私たち生徒は自主的にアイデアを探し、比較し合い、意見を深める雰囲気できていた。この空気感こそがエディンバラ大学のレベルが高い理由のひとつなのだろうと感じた。

[The Three-Day weekend trip]

Yusei Morita

初めてのヨーロッパ。自分がしてみたい、自分たちしか経験してない、といえるようなそんな経験をしてみたかった。

例年ほとんどの学生がエディンバラに近いロンドンやハイランド地方に行っている。もちろんそれらへ行ったことがあるわけではないのだが、せっかくヨーロッパのこんな北の地に来たのだから予てから行きたいと思っていたアイスランドに行こうと決心した。1人でも行こうと思っていたが自分の無謀な挑戦について行きたいと言ってくれる友達が3人も現れ、それから4人でのアイルランド旅行計画が始まった。ところが、アイスランドは時間的に厳しく、北欧の国々に行くことにした。



まず私たちは木曜の夜の便でコペンハーゲンへと向かった。人生初めての空港泊もして金曜の朝には皆で動き始めることができた。一つ忘れていたが、この旅の私たちの共通認識として、夜ご飯や観光料金を除いて一切の贅沢をしないということがあったことだけは先に述べておこう。

1日コペンハーゲンの街を練り歩き、現地の人々と触れ合ったり、日

本ともエディンバラとも違う余裕があり落ち着いてはいるが少し賑やかさや華やかさを纏った街の雰囲気を感じることができた。そこから寝台列車で2.3日目をストックホルムで過ごした。正直ストックホルムもコペンハーゲンと街並みや雰囲気は変わらないように感じたが、偶然遭遇したミリタリーマーチやトイレない問題などその場で起こるすべてのことが新鮮で刺激的だった。また、私が分かってはいたものの驚きを隠せなかったのが物価の高さだ。どこの国も通貨の単位は違えど揃って日本とは比べ物にならない物価の高さをみせていた。

私たちの3連休はその後、フィンランドを経由してトランジットを楽しみつつ月曜の朝にエディンバラに到着するというハードスケジュールであった。しかし、疲労感はなく新たなものに触れられた楽しさや驚きが私たちの身体を満たしていた。また行こう！



私は、三連休とその前後一日、合わせて五日間を使って北欧旅行に行きました。木曜日、夕暮れの飛行機でまず向かったのはデンマーク。お金がないので空港泊です。翌朝、町に出てまず驚いたのが物価の高さ。イギリスで慣れていたつもりでしたが、デンマークのそれは次元が違いました。500mlの水が750円した衝撃は忘れられません。その日は丸一日かけてデンマークを観光。午前中は郊外に出て、世界遺産のクロンボー城やロスキレ大聖堂を巡りました。午後はコペンハーゲン市内に戻り遅れてきた友人と合流、世界三大がっかり名所の一つである人魚姫像などを見ました。想像

像以上に小さかったです。



22時前の夜行列車でコペンハーゲンを出た私たちはストックホルムに向かいました。道中では友人が酔客に絡まれました。理不尽にキレられ、相手はひとしきりキレ終わったら寝ていました。怖かったです。目的地に着いたのは6時半。街をぶらついていて日本大好き集団に声をかけられました。向こうでは中国人だと勘違いされることが多かったので、”Are you

Japanese?”と声をかけられたときは嬉しかったです。昼前には最初の目的地、ドロットニングホルム城に到着。衛兵交代を目の当たりにしました。夜はこの旅行で唯一ホテルに泊まりました。(ホテルというより野戦病院でしたが。)夜中はみんなで夜景を見つつ、散歩をしました。夜景も勿論綺麗でしたが、最も心に残ったのはUFOです。本当に見たんです!!結局ホテルに戻ったのは2時過ぎでした。翌日はノーベル賞博物館やリッダーホルム教会を見学し、21時の飛行機でスウェーデンを発ちました。ヘルシンキ空港でのロングトランジットを経て翌朝エディンバラに帰還。そのまま学校へ向かい、僕らの弾丸旅行は幕を閉じました。

ここまで、三連休について足早に振り返ってきましたが、字数の都合もあり書ききれないことだらけです。楽しいことばかりなので、ぜひ三連休は国外へ足を延ばしてみてください!!

[Reflections of Our Experience on This Program]



Now I think joining this program was a really great experience in my life. First of all, it was the first time I had ever been abroad. I had no idea what it was like to live abroad or how it would affect my life. The first week was the hardest, as I had to get used to the new environment. I had to speak English and understand what native English speakers were saying all the time. This itself was stressful for me at first, and experiencing the language barrier was even more stressful. However, I got used to it after a few days, and now I no longer feel uncomfortable speaking English. This is because I realized that, even if you make grammatical mistakes, people will try to understand what you're saying, and in terms of communication, you don't have to worry about small mistakes. This helped a lot in improving my English. In class at the university of Edinburgh, we learned basic English words and phrases related to economics and how to write reports. This was like preparation for global learning, and I think this will help not only with studying abroad but also with my daily studies because now I can understand something written about economics more easily and get a global perspective. Interaction with people from other countries was also a great experience. I met university students from China, and we had opportunities to talk about serious issues each country faces. They were really kind, and that might be the greatest experience I had during that month. Talking with them, I learned that every media broadcast information, including biased information, and now I know the importance of thinking from a broad perspective. After a month in Edinburgh, I felt many cultural differences, but I came to think that there is no good or bad when it comes to manners, because different cultures have different values and standards. In this way, the past month had a great influence on me and changed my perspective.

(Shunsuke Akagi)



I have experienced various things in this program in Edinburgh for a month. I will write about my experiences divided into two aspects, class and foreign culture. First is English class. We have taken English class for a month at the university of Edinburgh. We learned how to write English sentences and make a presentation there.

Of course, I learned those skills in this class, but I think the most valuable experiences in that class was I had to listen, respond and do everything in English. In the first place, if I can't understand what the teacher says, I don't know what to do. I can't undergo this kind of experiences if I am in Japan all the time. It was also significant that the local students were there. The local students were always supportive and guided us to various places after class. I think the opportunity to engage with local students was very valuable and meaningful.

Second is what I can experience about foreign cultures. This program was my first experience staying abroad for a month, so everything was brand new and fresh for me. I visited many tourist spots in Edinburgh during the month, and even went to neighboring Glasgow and went to London on weekends. It was very interesting to see many buildings that was completely different from Japanese one and it was also interesting to know the history of each building. The most surprising thing for me was the local food was not as bad as it is said. Although it didn't have much color compared with Japanese foods, but I think it was very delicious.

I think this one month in Edinburgh has been very meaningful for me. I hope to visit again someday after improving my English ability more.

(Towa Ashidate)



My time in Edinburgh was very exciting and it helped me to develop my English language skills.

Day one of my Edinburgh life was extremely difficult. Due to getting on the plane that arrived later than the one everyone was on, I had to walk alone at night in a city I did not know. I got off the bus from the airport, and that was the moment I landed in Edinburgh for the first time. The city of Edinburgh was lively even at night, but I didn't pay attention to it and just looked at Google Maps with my heavy suitcase. I managed to arrive at the dormitory, and after entering my room, I have almost no memory of it.

Classes at the University of Edinburgh started the next day, and at the same time, I began the routine waking up at 7:00 a.m. every day. At first, I was able to wake up before the alarm went off due to nervousness, but gradually I developed a way to stop the alarm without opening my eyes.

The class was divided into groups of three or four students, and the format was based on discussions and sometimes activities, making it fun to learn academic English. On the weekend of the second week, a poster conference was held, and I conveyed the content of a poster that I had researched. It was difficult to convey the content while responding to questions, but I felt a sense of fulfillment when I somehow let the audiences understand. In the final week, we had a pair presentation. I felt that I was able to give a good presentation with the goal of speaking as naturally as possible while actually using the academic language I had learned so far. (I have nothing but gratitude for my pair)

Finally, I would like to thank my parents for sending me to this program, and my professors at the University of Edinburgh and Yokohama National University, and all the people who helped me!!

(Ryunosuke Fuji)



I believe that my English level had improved dramatically through this program.

In the first week, we went to the public bar, and drank. The bar was full of drinking people, loud music and the smell of beer. There was very noisy, so we had to shout when we order.

In the second week, I visited Portobello Beach with my friends. The weather was fine and the temperature was nice to swim in. So, we enjoyed swimming in the sea. However, some of my friends went into the sea despite not having swimsuits. So I decided to go to some shops which sell clothes they put on, but since it was late, only few stores remained open. At last, I rushed into the store which is about to close and explained our situation. The staff was so kind and was willing to help us. This experience was excited for me and made my English level higher.

In the weekend of third week, I visited northern European countries. English is not spoken in many Nordic countries and I had to communicate with non-English speakers. One morning, a Swedish Japan-lover spoke to me and we discussed Japanese manga and anime in broken English. Having a conversation with people who did not speak English with each other was very stressful for me, but it was a new experience for me, and I enjoyed it very much.

In the last week, I visited the Edinburgh Castle with my friends and went shopping. Using what I learned, I was able to communicate smoothly with the clerk. It was a lot of fun to shop using the English I had become a little better at. I would like to visit Edinburgh again if given the chance.

(Yuto Fukuda)



The month I spent in Edinburgh, where the entire city is registered as a World Heritage Site, was the most fulfilling period of my university life. The city surrounded by historic buildings is wonderful, and just looking outside refreshes me. There are two things that I learned.

The first is my lifestyle. I experienced a lifestyle that is very different from Japan, and it allowed me to reconsider my lifestyle in Japan completely. What particularly impressed me was that people were sitting on the grass without laying a picnic sheet and spending their time in their way. Some people were working there, others eating meals, and others chatting with friends. It was impressive to see how they naturally incorporated nature into their lives. I decided that even when I return to Japan, I would like to spend some time in nature to refresh myself from time to time.

The second is the ability of English. By being in an environment where university classes were conducted in English and English was essential even at my homestay, I feel that I can speak English more smoothly than before and communicate better. I learned that English is only a secondary element for conversation and that in the end, it is communication between people.

This month was a time for me to reflect on myself and think deeply about my future. Everything I ate, heard, and saw was new and exciting, and I was able to spend the stimulating day. I felt that I

wanted to go to more countries and have more experiences and that I wanted to have more opportunities to talk to people from different cultural backgrounds and become aware of and change my values and thoughts.

(Hina Goto)



Through this program, I was able to make special memories that I will never forget.

I was able to experience many things that I would not have been able to experience in Japan, such as living with a very kind host family, high-level university classes conducted entirely in English, and the various sightseeing spots in Edinburgh with my mentor.

I had never studied abroad before, so this was my first time in an environment where everything around me was in English. Before I left Japan, I was full of anxiety, but I remember that I was very encouraged by the kindness and welcome I received from my homestay host family. After school, I went to Edinburgh Castle and Botanical Gardens with my classmates. In August, a festival called the Fringe was held in Edinburgh, so I went to see a magic show. On weekends, I went to the sunflower fields with my host family and went shopping and enjoyed my life in Edinburgh. On a three-day weekend, I went to London with friends. We went to famous sightseeing spots such as Buckingham Palace and Big Ben, and enjoyed traditional British food.

In class, we were able to improve our English language skills and presentation techniques through research lessons, writing lessons, and business lessons. We used these skills to make poster presentations to each other with foreign students from China, and to complete a final presentation by conducting a survey of people in Edinburgh ourselves. It was a lot of hard work, but it was a lot of fun and it was all new experiences for me. I am happy to have spent the best summer of my life in Edinburgh.

(Miho Hirai)



Through this program, I learned a lot of things. I am going to write about two points which are homestay experience and University life.

First of all, I have two reasons to choose homestay. One of the reasons is the improvement of my speaking skill. I felt that the main reason that I was afraid of talking with someone who usually speaks English is because lacking my English-speaking experiences. Another reason was that I wanted to try Scottish traditional cuisine. When I met my host family on the first day of the Scotland, I was so nervous and couldn't talk fluently. When I arrived at their house, my host family prepared the meal and held the party. Thus, I felt happy and didn't feel nervous anymore. During this program, I made Scottish shortbread with my host family. It was an awesome experience and the most fun memory.

Next, I'm going to talk about university life. I was really impressed by the university. As one of the oldest universities in the UK, Edinburgh combines centuries of tradition with a progressive academic environment, making it a unique place to study and live. There were lots of beautiful campuses and facilities. I enjoyed studying at Edinburgh university. To be honest, I struggled with the final presentation. Even though students had 1 week preparation, I felt that it didn't have enough time to practice. My presentation topic was tourism between Japan and Scotland. Me and my partner Hina searched a lot of things and had confidence to present that. Therefore, I fulfilled the final presentation.

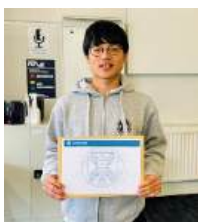
In sum, I learned that Scotland was a very beautiful and historical country. Moreover, the Scottish people were very kind. I respect them. Life at the University of Edinburgh combines academic excellence with a rich social experience in one of the most beautiful cities in the world. When I have one more opportunity to go Edinburgh, I will definitely join again.

(Maiko Hirota)



In Edinburgh, I had many first-time experiences. It was my first solo trip abroad and my first time flying alone, with a layover in Istanbul. On my first day, I was immediately captivated by the city's scenery. It was my first time in Europe, so the stone streets and architecture impressed me deeply, especially the atmosphere around Edinburgh Castle. During the week, I had classes in the mornings, all in English, covering everything from grammar to presentations. In the afternoons, I enjoyed exploring the city with friends, going for drives with my host family, or simply relaxing at home. My host family welcomed me warmly, and our daily conversations were great English practice. The beautiful city and the kindness of the people made my time in Edinburgh unforgettable, and I hope to return someday.

(Riki Imanaka)



I feel this short abroad experience will give me more motivation to study English and remove my anxiety for different cultures. This summer school program is suitable for people who are interested in studying abroad but are not confident in their English skill. I can recognize how my English skill is useful for native person. Moreover, I was able to get to know the real lifestyle in Scotland. For example, the number of rainy days is smaller than I expected. The taste of sandwiches in convenience stores is bad, and the British like beans and chips. However, Fish & chips, which is a British local food, is very delicious! In the end of the August, I got used to speak English and disappeared my anxious for abroad.

Of course, the streets and buildings in Edinburgh are very nice! Moreover, in August the whole area of Edinburgh is excited by the International Festival and Fringe Street Festival. I love Edinburgh and I feel this is my second hometown.

The short trip to Glasgow and London is also a very enjoyable experience. Especially, I recommend the University of Glasgow in Glasgow and the British Museum in London. In the University of Glasgow, you can enjoy old and beautiful architecture like movie studios. In the British Museum, you can enjoy some ancient Egypt and ancient Mesopotamia artifacts. I took the high-speed railway to access London. It is very comfortable, and I can enjoy a window view of the rural landscape.

Finally, I will introduce a classroom at the University of Edinburgh. We studied English skill and Economics such as Academic Writing, Presentation skill, Economical terms, and Economy in Scotland. The classroom has many opportunities to discuss with English, so it was hard to join the discussion actively. Also, students have to write a business report and give a presentation on the last day. However, the situation people need to speak and write English is very good effective to improve our skill.

(Soma Isobe)



I would like to summarize my experience in Edinburgh. It was my first time going abroad on my own and I headed to Edinburgh feeling elated and a little nervous. In Edinburgh, I spent very productive days, taking classes with many fellow students and experiencing a lot of Scottish culture around the city. The most memorable experience for me was when I went to the city of Glasgow with my friends. When I arrived in Glasgow, I suddenly became friends with Adam, a stranger, and we talked a lot while he showed me around the city. The highlight of my time in Edinburgh was a visit to a park called Green Park. This spacious park, which is on a scale not found in Japan, is a place of relaxation for the citizens and I strongly believe that the time I spent there was very pleasant.

I also experienced a lot in terms of academics. The program concluded with a final presentation, in which my partner and I had to give a 20-minute presentation on the economy. It was the first time for me, as a first-year student, to have to give a 20-minute presentation on the economy, and I felt that it was very tough to do it in English, which I could not use very well. I started preparing for the presentation more than a week in advance and did not neglect my preparation until the day before the event. When the presentation was over, I felt a tremendous sense of achievement. Through the presentation, I learnt that the format and important points are different from those in Japan, and that it is difficult to communicate clearly and concisely in English.

I learned a lot through this program, and I am very grateful to everyone involved.

(Masahiro Kanazawa)



Everything about my life in Edinburgh was out of the ordinary and stimulating. The old streets, the unique shops, the local food, the English spoken throughout the city, the experience of traditional dancing, and the special classes I took at a university abroad were all new experiences for me. Among all the wonderful experiences, I think others have written a lot about the classes at Edinburgh

University, so I would like to look back on my experiences of how I spent my

holidays. I had two two-day holidays and one three-day holiday in Edinburgh. I will talk about the three-day holiday that was particularly memorable. One of the good things about Edinburgh is that you can go to places that would take 10 hours by plane from Japan in just a few hours. I used the three-day holiday with my friends to travel to Denmark and Finland with just one backpack. The itinerary was that I headed to the airport on Thursday night after classes were over, took a night flight to Denmark, and spent the night at Copenhagen Airport. After that, I spent one day sightseeing in Copenhagen, then took a sleeper train to Finland, and spent two days sightseeing in Stockholm. On the way back, I spent another night at my connecting flight in Helsinki Airport, then took the first flight back to Edinburgh Airport and attended my university class at 9am. I would not have been able to have this experience if I had travelled from Japan to Northern Europe with a lot of luggage. These five days were special and it would not be an exaggeration to say they were the most fulfilling five days of my life. I am truly grateful for studying abroad in Edinburgh, which allowed me to have such an experience that I don't know how many times I will be able to have it in my life.

(Kentaro Kiuchi)



Through this summer program, I learned a variety of things, both academically and culturally. Not only did I study English, but I also gained a deep understanding of Edinburgh's culture, traditions, and customs. The experience of immersing myself in a new cultural environment was eye-opening and incredibly enriching, allowing me to appreciate the diversity of perspectives that make up our world.

In classes, I received instruction from professors at the University of Edinburgh on how to write essays and structure presentations in English. This training helped me improve my communication skills and gain confidence in presenting my thoughts in a foreign language. Additionally, I learned about Scotland's economy, covering topics such as GDP, trade, and the country's unique approach to work-life balance. These economic insights helped me understand Scotland's values and priorities as a society.

Beyond academics, the program provided valuable opportunities for interaction. I enjoyed engaging with other international students, exchanging ideas, and learning about different countries'

perspectives on various topics. Through these interactions, I broadened my worldview and gained insights into global issues that extend beyond textbooks.

After class, I spent time studying in the university library, surrounded by the historical ambiance of Edinburgh's academic environment. During free time, I also explored local festivals, where I had the chance to enjoy Edinburgh's traditional music, dance, costumes, and cuisine. The festivals offered an immersive experience of Scottish culture, and I was fascinated by the vibrant atmosphere and rich history that each event celebrated.

The people of Edinburgh were friendly and welcoming. I often struck up conversations with locals in parks, where I learned about their way of life and enjoyed discussing both lighthearted and serious topics. Sometimes, we played sports together, adding a refreshing and active element to my experience. All of these moments contributed to an unforgettable and meaningful summer in Edinburgh.

I want to make use of what I learned in Edinburgh to actively engage with people from other countries and contribute to the international community in the future.

(Atsushi Miho)



The University of Edinburgh's summer program was an unforgettable experience that pushed me to grow in ways I hadn't expected. Arriving in a foreign country alone, I faced a series of new challenges: taking classes in English, living with a host family, traveling solo, and spending time with local people. At first, I felt nervous and uncertain, but I soon realized that the key to making the most of this opportunity was to take initiative. While English skills were important, more crucial was the willingness to reach out and communicate.

The program encouraged me to step out of my comfort zone, especially in the discussion-based classes where students from diverse backgrounds shared their opinions openly. Initially, I mostly listened, lacking confidence to speak up, but over time, I understood the importance of contributing my own perspective. By participating more actively, I found that mutual respect and understanding grew among us.

One of the biggest challenges was traveling on my own. Planning routes, reading maps, and navigating unfamiliar places was more difficult than I'd anticipated, yet it was also deeply rewarding. Edinburgh's historic architecture and cultural richness fascinated me, and learning about the city's stories made me appreciate it even more. Additionally, interacting with locals allowed me to experience British humor and warmth firsthand, creating memories I will never forget.

Through this program, I gained not only language skills but also the confidence to embrace new environments. Even now, back in Japan, I feel that the courage and proactive attitude I developed

will support me in my future studies and career, encouraging me to continue pursuing new challenges with an open mind.

(Yusei Morita)



I had always wanted to study abroad at least once during my university years. While I had a strong dream of going abroad, my English skills were very low, contrary to my dream. I was determined to do something about this situation, which is why I decided to apply for this program. The university classes were not so much about economics as they were about English classes to develop academic English skills. Because the classes were held in small groups, there were many opportunities to speak up, and I was able to learn independently. I stayed with a homestay family in Edinburgh, where I inevitably had to speak a lot of English, and I think my own English skills improved greatly. Also, to be honest, I was feeling nervous and anxious and depressed before my departure from Japan, but after a week in Edinburgh, I felt less depressed and more excited to travel more. In fact, I went to London with a friend on my second week holiday and went on a trip to Newcastle by myself on my third week holiday. I was also impressed by the freedom of the program. Outside of university classes, I basically had free time and was free to do whatever I wanted. This allowed me to find out what I wanted to do and do what I wanted to do. Sometimes I enjoyed Edinburgh with my friends, and sometimes I went to places I wanted to go alone. In the process, I interacted with local people and inevitably improved my English. My pre-departure worries were completely meaningless. Now that I am back in Japan, the Edinburgh loss is still with me.

(Go Miyoshi)



In August, I went to Edinburgh, the capital of Scotland, for a month. In this essay, I am looking back on the great experience in Edinburgh.

It was the first time to go to a foreign country and to study abroad. So, I had difficulties with even booking a flight and getting on a plane.

On August 5th, I arrived in Edinburgh, and I was moved by the climate. It was cool. (The summer in Japan is too hot...) The climate of Scotland is just right.

From August 6, the English class started. I learned a lot in the classes. For example, I studied academic reading, writing, speaking, and presentation skills. Through Kathryn's and David's great classes, I got a lot of knowledge and experiences with group member.

Of course I had a lot of chances to speak English. I could tell my thoughts. Speaking English was so pleasant. However, I could not hear someone to talk with. I am not good at English and Scottish pronounce and intonation was difficult. I will study hard to listen to English. Also, I had many

opportunities to talk with Chinese. They were in the same dormitory and the university. It was so fun to talk with foreign people in English. I could know Chinese real.

I had three holidays, so I traveled to Paris with my friend. It was also a great experience. I went to famous tourist spots of France such as the Tower Eiffel, the Louvre Museum, the Arc de triomphe, and Palace of Versailles. The Louvre Museum has many famous works. I saw the Mona Lisa directly. There were traditional townscapes. I was so moved by the atmosphere.

I had great experiences in Edinburgh. I want to go there again.
I love Edinburgh.

(Yuta Nakamura)



I will write about my experience on Applied Economics Intensive in Edinburgh university.

In week1, I hesitated to say something in English. I study English in junior high school and high school but I mainly studied reading, listening and writing. So in week1, I could not talk a lot in English. But my teacher Mr. Scot said “you should talk more in English and ask me questions. Because to answer the question is my job.” After hearing his words, I tried to talk more in English.

In week2, we did mini poster session with Chinese students and students of Nagoya university. To answer their questions quickly was very difficult. But I was able to talk more easily than in week1. I learned that say something is better than thinking perfect English. English is not our first language, so I was able to place more emphasis on communicating.

In week4, I had presentation with my partner Saki. In week3 & week4, we prepared for that. We made PowerPoint about electricity bill in Scotland and other countries. We had to read articles written in English and find references. It was difficult to find appropriate references and understand the article quickly. We also did questionnaire and think how to tell our research. In our presentation, we tried to do eye contact and talk clearly.

In my dormitory, I met Chinese students. There are common room in my dormitory. We can eat something or talking or do some card game and board game there. To talk with them is also fun. We had two class in the morning and we sometimes had activities in the afternoon. We went to National Museum of Scotland, city tour by bus, National Gallery of Scotland and parliament. It was memorable. I think to know other countries culture is very interesting. Especially pictures of museum were impressive.

Through this program, I can try to tell something in words I know. I want to go Edinburgh again and other countries.

(Yui Natsume)



Through this course, I learned academic words, and how to read academic paragraphs and express things academically. In this course, I have had many opportunities to absorb those techniques, and I gained confidence that communication was established using them.

There were three main tasks in this course. A short poster session, a 750-word report, and a 10-minute presentation per person. In the short poster session, I had to answer the audience's questions immediately. That was the most difficult part of that task. However, as I repeated the process with different audiences, my presentations became smoother and I was able to respond quickly and well to frequently asked questions. In the 750-word report, I was required to have access to information necessary to explain my logic, to explain my logic carefully, and to have the ability to write references correctly. And in the 10-minute presentation, I was expected to have a clear understanding of what I wanted to talk about and to speak without a script. I gave a long presentation, paying attention to many points such as my posture, tone of voice, gestures, and speaking style. When the presentation was over, I felt happy that I had successfully achieved the results of my practice. I received detailed and good feedback, and I would like to improve my presentation for the next time based on it.

Through these tasks, my regular classes and daily conversation in the homestay, I feel more familiar with English. In Japan, it is very difficult to create an environment where people think, listen, and speak in English. That is why it is very important to have the experience of spending a month learning English well and making an effort to improve little by little.

(Tamaki Nomura)



The world from a new perspective

Visiting new places, especially a foreign country, can sometimes be a life-changing experience. Despite being my second visit to the UK, I was very unfamiliar with Scotland and learned many new things. Not only the environment, but also living in a dormitory with unfamiliar people and having more responsibilities was very new to me.

During the month I visited places in and outside of Edinburgh and got to see much of the rich nature and history that the UK has to offer. Edinburgh has various historical sites in every corner of the city. For example, the royal mile is the main street of the Old Town area. It connects two structures in the history of Scotland. On one end is the Edinburgh castle, which is claimed to be the most attacked structure in the world, going through 26 sieges. And on the other end stands the Palace of Holyrood, a British royal residence. The underground vaults were a place I especially found interesting. They convey the harsh circumstances of homeless citizens in the 18th century. Outside of Edinburgh, I also got a chance to visit fascinating cities such as Glasgow, York and London. I was amazed by Glasgow's iconic subway system, being very compact and convenient.

The gallery of modern art was an inspiring place as well. York and London were cities also filled with traces of history such as Cathedrals, historical Monument to the Great Fire of London, and the Royal Observatory of Greenwich.

Visiting these places opened a point of view, not just knowing history as facts. This program provides a chance to not just improve English, but also grow as a person, gaining responsibilities and a better understanding of history and foreign culture, well needed for a global citizen in the world we live in today.

(Mizuki Okamoto)



For our final project, we gave a presentation on the last day of class. The presentation was about a topic related to the economy, comparing Japan and Scotland. We worked in pairs, creating a 15-minute presentation and used slides to present it in front of the class. In the four-week class, we mainly learned points about English writing and speaking, and we used that knowledge to create our presentation. We had about two weeks to prepare, including about eight class sessions to work on it. We also did interviews outside of class time. If we couldn't finish during class, we stayed at school with our partner to work.

I researched the differences in the cost of living between Japan and Scotland. At first, I was just researching to make the presentation, but as I went deeper, I became more interested and learned a lot about Scotland. I also interviewed about ten people, so I could hear real stories from people in Scotland and include their views in our presentation. Specifically, I asked questions about where they spend money and how much they spend, and I used this information as data in our slides. The reason we chose this topic is that we were surprised by how high the cost of living is in Scotland. Additionally, because of the weak yen, living expenses felt about twice as high as in Japan. Through this project, not only did my English improve, but my understanding of Scotland also deepened. Without this project, I don't think I would have learned about Scotland's economy and lifestyle, so I think it was a great opportunity to learn about another country through the school's program.

(Yuka Ozawa)



I joined the Applied Economics program in Edinburgh to fulfill a long-time dream of studying abroad. Before this program, I had taken a break from university to run my own business. However, I became tired of the business and decided to return to university. Then I chose this program as a way to refresh myself. This opportunity allowed me to recharge while experiencing a new academic environment and culture.

To be honest, I focused more on real-life communication than classroom studies during my time abroad. I feel sorry for the teachers and apologize for this.

My host mother, a devoted Christian, introduced me to various people and provided numerous opportunities for English communication. At first, I struggled with the unfamiliar English, but everyone listened to me patiently. Gradually, although my English was still not perfect, words began to come out more naturally and spontaneously. The most memorable experience was meeting a business owner.

She was an impressive woman, about the same age as my mother, who had been running her own business independently since graduating from university.

Despite my own exhaustion from running my business, I was deeply shocked and filled with admiration for her. By talking with her, I was able to realize my soul's desire to challenge myself in business once again.

Once I overcame the language barrier, I realized that I could connect with people who had similar ambitions but had different values. This interaction provided me with new ideas and perspectives. Sometimes, the environment we are in may not be the best for us. For example, while entrepreneurs are rare in Japan, they were not uncommon in the UK, where the Industrial Revolution took place. My host mother was even planned to start her own coaching business. If I wanted to make friends with entrepreneurs, it would be better to go abroad. In such cases, I directly experienced how language can act as a bridge to connect me with the people I want to meet.

Finally, through my experiences in Edinburgh, I decided to learn English not just for exams like TOEIC or TOEFL, but as a tool for communicate with the people I want to connect with. To do this, I want to be brave and challenge myself, rather than just studying at a desk in a rigid way.

(Mayu Shiraishi)



I feel that I have grown in many areas through this program. Firstly, my English language skills. This ability was developed through one month of classes. I think my writing skills and presentation skills in English have improved significantly in this class. I was able to learn things that I could not learn in Japan, such as the different nuances of words with similar meanings as thought by native speakers. I was also able to develop my communication skills in English. These skills were mainly developed during the homestay. In an environment where English was the only language spoken for a month, my English speaking and listening skills improved day by day as I tried to convey what I was thinking and somehow understand what the other person was saying. If I had been in an environment where Japanese was spoken, I would have tried to communicate in Japanese, as I tend to take the easy way out. The environment in which I was forced to speak in English made for a very fulfilling study abroad experience. It was not only my English language skills that grew during this study

abroad experience. I think I also grew in my ability to adapt. It must be quite a hurdle to suddenly spend a month at school in a completely different country from Japan, with people you don't know at all, communicating in a language you are not familiar with. I was even more anxious because my English was originally quite low. However, with the help of my kind hosts and classmates, I was able to complete my time abroad without any major problems. Through this study abroad experience, I gained confidence that I would be able to enjoy myself in a new country. I would also like to thank the many people who supported me.

(Hayate Takebayashi)



Hello, my name is Shota Takebe. When I was five years old, I went to Australia with my parents, and this was the last experience for me to go abroad. So, this study abroad in Edinburgh was for the first time in 13 years and it was the first time for me to travel alone to abroad. The way to Edinburgh was tough for me, because the seat on the airplane was cramped and noisy so that I could not sleep well and be bored.

After we arrived at the dormitory, I faced the most difficult and serious problem. We walked around the dormitory to buy food, soap and drinks. The higher prices compared to prices in Japan surely made me confused and annoyed, but the problem I thought most serious is I did not know what Scottish eat every day and could not find no staple food I imagined while I was in Japan. It is natural that there is no rice - to be precise there is little but expensive, but until I live there few days, I could not find inexpensive pasta, so on the first day, I only could find bread and pizza that I usually do not eat. I despaired to notice that it is difficult to spend "usual" life.

The first week, I had to do final assignments of YNU. After I finished them, I was able to look around and spend time searching for less expensive pizza, bread, vegetables and so on. By doing this, I could learn my mother's hardship.

The most impressive scene that I felt my English skills improved was the conversation with a souvenir shop clerk. On the last day of my study abroad in Edinburgh, I went there and bought a hoodie. It was a bit dirty, so I asked her whether I could remove that. As she also did not know, she kindly brought new one from another shop.

(Shota Takebe)



What I gained from this Applied Economics Intensive program is that to master English is really difficult and to study abroad is the best chance to concentrate on English. By the way, the reason why I decided to join the program was that I wanted to be a good English speaker. In conclusion, I feel I could not to be so. In order to accomplish my goal, I tried to take advantage of chances to speak English.

First of all, when I was spoken to by Scottish people, I always kept in mind to enjoy conversation with asking and answering as many questions as I could. When I had breakfast alone at a café on

Sunday morning, a woman working there asked questions about me, so I tried to grab what she was asking and answer them, and I noticed how difficult it was to listen to Scottish English and to convey what I wanted to say in English. In addition, when I met some Chinese students at our accommodation, I tried to speak English and sometimes talked about each culture or language, and sometimes discuss something political or the relationship between China and Japan, which was really a valuable experience for me and enabled me to practice organizing my thoughts and choosing appropriate expressions at once. For these experiences, I suppose it is true that I can develop my English skills and become more familiar with English, but I cannot speak English fluently enough, so what I reflect on my experience in Edinburgh is that studying abroad is the best way to realize my English skills and to motivate myself and that to be a good English speaker is really hard. As I am motivated by this program very much, I would like to continue to come in touch with English practically.

(Ruriko Tanaka)



Studying abroad is an important opportunity for many to gain new perspectives and personal growth. Thanks to this program, I was exposed to a different culture, which led to my personal development.

I decided to participate in this program to improve my language skills. I came to be able to communicate more naturally through classes at the University of

Edinburgh and conversations with my host family. In the University classes, I learned how to write a paper in English and how to express economic terms in English. I have not written a paper in English on a Japanese assignment yet, but I want to use what I learned in this class.

Also, I was able to experience cross cultural exchanges. For example, I talked to Chinese students in the poster conference and understood their culture. Moreover, my host mother talked about Scottish history and useful knowledge, her thinking at dinner time. I have broadened my own horizons by being exposed to different values and ways of thinking.

My self-management skills were also developed while studying abroad. I sometimes felt lonely and anxious about living in a foreign country away from my family for the first time. However, overcoming this has fostered my sense of independence. I realized the importance of time management and planning. I have learned to take my goals seriously through this program, so I want to use what I have gained from these experiences in the future.

Studying abroad may be a lot of hard work, but everything I gained from it is valuable. I have improved my language skills, gained intercultural understanding, personal growth and an international outlook. My experience on this program was invaluable in my life. I would like to continue to make use of the experience I gained through this program and devote myself to my goal while respecting diverse values.

(Chie Ubukata)



I lived in a dormitory during the program. Since I did not live with a homestay, I felt that I had relatively few opportunities to speak with local people. However, I did have opportunities to communicate with other international students. I deepened my friendships not only with other Japanese universities but also with Chinese students by talking and playing billiards with them. Conversations with the Chinese were conducted in English, with the occasional use of Japanese and Chinese translations. They were very interested in Japan and asked us many questions about Japan. They were especially interested in politics and economics, and I was surprised when they asked me what I thought about Tetsuya Yamagami. I could guess that the assassination of the former prime minister had been widely reported in China to the extent that I could remember the name of the perpetrator. I also realized how little interest I had in what was happening in society because I could not express my own thoughts on the question. I had never interacted with Chinese people before and had an impression formed only by the knowledge and image I had acquired in Japan. That impression was a negative one, and I feel from my life so far that many Japanese people have the same impression of Chinese people. However, when I actually met and talked with them, they were kind and treated me to meals, etc., which gave me a positive impression of them. From this, I felt that there is information that is difficult to obtain in Japan, and I was able to feel firsthand that I need to actively take in information myself in order to see what happens in the world with fair eyes. Living in a foreign country and interacting with foreigners will help me to do so, and I believe that this is one of the most significant reasons for going abroad to study.

(Kenshin Uchiyama)



Reflecting on my one-month program in the Summer School at the University of Edinburgh, I feel a profound sense of growth, both academically and personally. This was my first experience studying abroad, and the immersive, challenging environment broadened my understanding of economics while sharpening my academic skills in a supportive setting. The program was carefully designed to develop several foundational competencies. Our discussions started with accessible economic topics suitable even for beginners, which helped me gradually understand economic thinking. These early discussions-built confidence and encouraged me to approach economic issues from multiple perspectives, refining my analytical skills in a step-by-step manner. Moreover, the curriculum placed emphasis on academic writing and presentation skills but was structured to ensure that students were not overwhelmed. Assignments and presentations were thoughtfully spaced, allowing us to focus on quality rather than quantity. Through these activities, I practiced organizing complex information, building clear, evidence-based arguments, and expressing ideas in English. By emphasizing clarity, organization, and structure, I gained confidence in both written and spoken academic

communication, skills I am eager to continue developing. In addition to these academic skills, my time in Scotland deepened my understanding of the country's unique economic landscape and cultural heritage. Through insightful lectures and local excursions, I learned about Scotland's main industries, economic policies, and how these are influenced by cultural identity and social values. This experience expanded my global perspective, fostering a more inclusive and broad-minded approach to economic analysis. In summary, my first study abroad experience was invaluable for building foundational academic skills and providing insights into Scottish economics and culture. I am confident that these valuable gains will greatly support my future studies and career in the field of business management.

(Hinano Yagi)



I had a lot of valuable experiences in Edinburgh. One of them was my days with my host family. My host family was very kind and respected my wishes. When I told them that I liked soccer, they talked a lot about soccer and gathered my friends to watch a soccer game together on tv. The food my host mother made was always delicious. She cooked a traditional Scottish dish called haggis and fish and chips. I really felt like I had entered the life of a Scottish family. Also, the streets of Edinburgh were very beautiful. It was like being in a tv drama with its many historical buildings. It was safe and the weather was comfortable. Particularly memorable things are Edinburgh castle and Arthur's seat. Edinburgh Castle is a great place to see the city of Edinburgh from a high point. Since I was there on the last day, I knew where everything was, and I was moved by the memories I spent a lot of days in this town. Arthur's seat is a high hill to climb. It was so poorly maintained that it would be unthinkable in Japan. I felt like I was in a foreign country, where if I fell down, I could easily get seriously injured. It was quite difficult to climb it, but it was worth it. Everyone in Edinburgh was helpful and friendly. The sun goes down fast, and it gets dark early, but I never felt scared. The past a one month seemed long, but it was very short. It was a place I would like to visit again.

(Daisuke Yamachika)



I think that this program was good for English study and foreign experiences. The class started basic contents carefully, so homework was not burden on me and it was easy for me to work. The teacher spoke slowly and English as easy as I could understand, so I could attend the class with no worries. I had some opportunities for presentation, so I could make a presentation confidently in the final presentation. When I prepared the final presentation, my teacher and mentor checked the progress and advised about content carefully. Also, the teacher checked homework thoroughly. Poster conference and dragon were new experience for me, so these were fun and good learn for me. After class, mentors planned some activities. I joined bus tour and ceilidh, and I spent good time and experienced Scottish culture. I stayed with host family. By staying with them, I could develop my speaking skill.

My host mother talked about Scottish culture and sightseeing spots in Edinburgh, so I could learn a lot of things. She cooked a variety of food and held a cheese party for me. The life with host family was fresh and good experience for me. On weekend, I went to sightseeing spots and fringe with friends. Military tattoo was best memory for me. I experienced spirit of fringe and Scotland. During holidays, I went to London. In London, I visited many historical spots. I could listen to guide in Japanese, and I enjoyed not only construction but also history. Through this program, I could develop my English skill and have a lot of point of view, so it was good experience for me.

(Saki Yanagita)